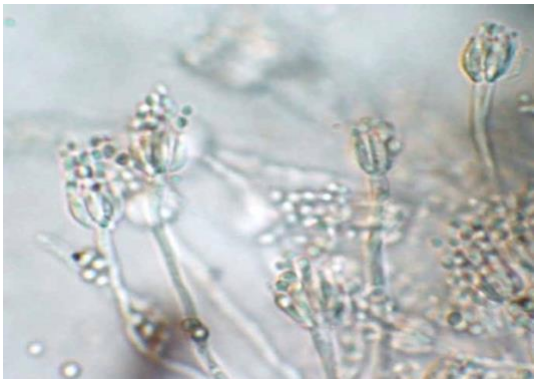
スマートフォンに潜む“怖い話”

3年間の使用中、一度も掃除をしていない検査対象のスマートフォンのカバーケース



検査対象のスマートフォンのカバーケースから見つかったアオカビの顕微鏡写真

病気の原因になるカビは意外なところに生えます。皆さんが普段使っているスマートフォンにもカビが生えることはご存知でしょうか？今回は実際にスマートフォンにカビ付着しているかを調査した結果についてお話しします。

検査対象としたスマートフォンは、現在、筆者が使用しているもので、タッチパネル式の機種です。普段は、スマホの側面を保護するシリコン製カバーを付けています。検査箇所はタッチパネルと、側面の保護カバーです。

タッチパネルは全面を専用の道具でふき取りを行い、カビを分離しました。カバーも同様に生理食塩水に浸けて全体をもみ洗いし、カビ数を検査しました。その結果、タッチパネルからはカビは検出されませんでした。タッチパネルは指で頻繁になぞるので、カビ胞子が定着しにくいためと考えられます。

一方、カバー全体からはアレルギー症状を引き起こす可能性もあるアオカビの胞子が約 1000 個検出されました。検査したカバーは普段、取り外して掃除はしていないので、スマホとカバーの隙間にはホコリが溜まっていました。そのホコリと一緒にアオカビが付着していたと考えられます。

プラスチックや金属など工業製品の表面では、カビが目に見えるほどに生育するには数週間かかります。使用頻度が多い物品はカビ胞子が定着しにくいので、カビが生えにくい傾向にあります。毎日指が触れるタッチパネルにカビが生えることはまず無いでしょう。しかしながら、カバーの内側は話が違います。掃除をしなければ、カビ胞子はいつまでもカバーの内側に留まり続け、次第にカビが生えてしまいます。一度、カバーを外してチェックしてみましょう。

カバーの内側に埃が溜まっている場合、可能であれば水洗いして埃を取り除きましょう。また、風呂場でスマホを使っている人は特にご注意を。湯気でカバーの内側に湿気がたまることが予想されますが、湿気はカビの最大の原因となります。また、細菌が繁殖して臭いも発生します。風呂で使った後にはカバーを取り外し、しっかり乾燥させましょう。

環境微生物研究室　主任研究員　橋本一浩